



花傳書 三

子刻
1.544
2



門多12
1544
蒲卷



柳深といひのあるふりかたなり先那波流乃
浪魯山のことの葉よもうへて長音を流くを
うまふし一候行きてうまひと号せり然り
ふつて深をうまひんと物もつんひとひある
あつていぬあましうくくあるを心うけ
ふるの要なりあるあき人乃うまひいさか
そさつあふしをうまひことねかして
りつりつと巻ならさのまてなれ先ある
むひよあまの月夜をうても雨乃あつても風の
あつてもむし此書のすたくはきしてもある
物もろやとろろを付く人い思ひあんきて
うまひ一が面白きなりさあつては心うけ

くく何何よよと貴人なる人の語り可なり
ときも俄くこひつまうと抑りよふきこる徳
口よいけり物なり才一よ字章かいくあ文字
うけりの人ちこめゆるあなをゆるめり
くばあきさけ一字はめ二字つめ三字ありり
三字さうわ三つひき文字をくりあうあ
うらとありりちと拍子きけてきととあな
まわりあうらたらもふ次才るけ付あ一せきふ
あなう一う急所一と一せいふとひ
いふう楽曲舞上とらんき入んあひ乃うひ
ぶときりめくのしもく乃うこひりけりあ
つひよ是をこふとりんともころとあわこ

ううあ人あうれく乃こもつるをうひ
わきふ高うくうあ事一才一のあひ
なり又十種とりあるあり是あまわりうき
物なり上のもんもてひわききうせ
つてあはまはあひ一五音とりあ事
徳りけねい面白きとりあるあ一徳やれ
あうくうあはあうひとらあのあめ
一ふせのうひのす

正月いさあふを初んときりあ松
いと井ううこひなり初春よ子日乃松と
ととといと井なまうあ万人乃あは松を
いと井ううこめらるまういちとせのよひ

たゆみもく人々盤木もて枝葉のかほくも言
おけきい花枝葉梨のさうひもあーさんうふ
こころも花よりぬ風よまくは事もあるく雲
霧もつこまひ雪中よはゆきまよりあををを
わらうくと若やき見するか枝よ松い花木の
うちよて目お交名木をわめりゆへよよりて
正月よ万人門よ松をいんわらーめ花ひきをそ
とーとくの林を勅傳し人るも松のよらひ花
れもつやうよと年此らーめよら花いをふ
志うらよよりてさ砂い松のめてたき威傳と
けらりころのあまきい初春よこま枝うこひ
そめとりふまけふまけ此いとくらのけらるの

松よれやー知波のみこころ此王子の清い位
あうらひもー時百濟國より王仁とよる相人
こ此國よわらり知波のゆ子よゆ代をゆけり
ゆりー我朝いよく安全あるへきよー奏守
ゆふ付て則知波のゆ子ゆらるおよゆきゆふ
を阿部即位あけてかのあよたの梅冬こもわ
してゆりさきよーらんあ乃ゆまゆ花さりゆとさき
見たまらうやうよむめいいあゆ名木也あゆ
もも花のあよと中て梅い花木乃あ乃熱氣
あまいりこくこ初春よ是をもちひとられ
うんこくひいあるよりつてころりもゆて
知波所のうらをもちひ知波のむめ花うこひ

うめりーうふたわ

一 三月三日掩をいんふ祝言あまの西王母東王
朔なりツの道も考れ洞子の双洞也

一 五月五日うきつりこなり

一 七月七日七夕あきう年の曲舞をうこふ
子卯いむりもろう遊子伯陽とソふ
夫婦の人あり及夫婦月をたもろくおひ
ゆふへよは月此いけるを待うあり成きい
りりこ乃月をたもてたりきありあり
かありをたもろく志う志んをふく月を
たもろくたもひ一合よりり二人乃ものい
世をきりては二の星となり天よむまは

二の七夕もきこ也今も七月七日の歌と

一 交ちきりなまふとつりうらゆへ
七月七日よはうこ城より見待を流りあり
たおろへま向をたも目なり終りりりて
うひも七夕をうこふ又あきう年の曲舞も
遊子伯陽乃り也きたよりりてあきり年の
曲舞とふ也

一 九月九日よは慈童とうこ也こきもろ
用乃穉王の時慈童とソふ人ありきた子卯
ありてつりきんきんは流はくさきは志と
観音經の二句の偈をあさゆふ後浦とらり
きよより薬れあ谷よおまわりこれ水をあらし

七百歳迄たもろれちありこととつらねまに
菊れもとよりあうまきつらるは水不流ふ死の
業となり目お交佳例なり九月九日いきくを
いとふせ川くならりあうまゆへは菊れめてたき
いとくあまきいとそ志とをうこふなり
かとしそのうこひいこひかへとせつこも
うちうへひ也こくくうちうへとせやうて
海海とつあ依なり

一船中むことめよめ入のうこひあうこひうへ
とへくくひ門出のうこひとけうこもて也
こまこいうへとよりあうまきこもてことり
こめとめ乃うこひい一舟一の親云なり海乃
うこひ海かとせりこまあひおひとつり力依也

一わこま一の淫の事あひひとつひの火す
いむ也されいそ心うけかんとうこもてひ乃
うち火すのたうひ乃あ依すよくかんとへ
淫をうこあまきなり調子も双調を用依也
ひう一の盤渡有姓あまきいもちひ侍ありの
あ代い是も火とをうこひの火すれをとそ
こまを略し双調よ定む双調の春乃調子なり
春の四季れこめとのりめあまきあまき
舟一の親云なりうこひゆへは家のこめ
もちゆまこいとく双調の本姓なりこく
もつてあまき相應乃調子と是哉ううきり

一 船中の中ひの祝言の自然居士の曲舞書卷は
きつりたる

奇の會進言は及あともひ是あつひあり
とをー乃曲舞是可然とまいつれの紀貫之の
世よおとれあきなり名人よて御書所と受け
たまつりつりへいまして乃この志あは
えつひ古今集歌所くわくも一代集の
あつらなりさはよまつてつものさつり
占々集よこえつり事いあからゆへ
奇る乃あつひの及び曲舞をうこへとあり
一五言のまきつひの太る是よまきんむる李の
あつ先よ言とは祝言幽玄息慕哀傷乱曲これ

あつ乃つ急のわつち也すくはたへし世るよ
徳よたかくありつりよとも五音よ徳よけり
人をまれ也よ言つりつりつりつりつりつり
面白きとつり事いあつりつりつりつりつり
よ言のこんきんいつけり要也先うとつり
たかえんいんあつりつりつりつりつりつり
わつあつりつりありつりつりつりつりつり
寂けいあつりつりつりつりつりつりつり
あひつりつりつりつりつりつりつりつり
さけ初心よかつりつりつりつりつりつり
つりつりつりつりつりつりつりつりつり
上る乃つりつりつりつりつりつりつり

すまゝに書いたるに抱いたるは打たざるもひと
 うゝひの音曲のうゝひなき事とやまひと
 ちり然いいまめのためは深とけ先大竹の
 ともてまうすくふあゝとくあう書物とて
 るがとも書かざるをよきるとつひ山坂ある
 ゆうとくろるいあゝきるとりくゝひま
 るよたとく書あるう本意とるう一才一文字
 大きあまの深志とけ一文字ちいさくれい
 うゝひ必かろしとやきとあろきと志例の
 なることと書かやきあふちうひ也物別うゝひ
 やうものよたとくゝ糸北かうきいゝひくゝ
 なる深交もうゝうゝおもんをうゝくゝよ

このうゝても下地あゝなる深交うゝくゝ
 うゝひと書いたる古人のうゝきをうゝる書物よ
 うゝひとけなるとものと書づくきんもかゝの
 うゝゝの依なりまうゝひよゝあかきんと
 物もつゝあゝの正あゝいゝゝひよ面白きと
 いふ事を書りかゝゝとかゝゝゝりも子あゝ
 うゝひつゝひよゝゝゝあゝ持て風乃吹も毎の
 あゝるもゝゝあゝけあゝれもゝゝやと念し
 月夜をうゝてもおのひあゝせゝゝひをむひよ
 持ゝゝゝの俄よ人の病あ望の時もなめれゝゝ
 時よ似合ゝゝゝゝひはよゝゝゝる物也古々乃
 序も和あゝゝゝ根とせんよ序きうれ荒紙

詞集よひくんとあわらうやう乃こと葉もこれ
しんひのらねくうへしんりちり
しんらんと物もあふ書よもちたてく二のすわ
ちやく百千よりくらんと思ふ心もてけいこ
さうわら物なり熱別うこひを梅は花乃撰よ
うこひたき物よてらすわ梅の一腔と木こひ
んそ枝はきもさうよよなき取あ一花いまこ
こ梅やうふさくうふうたかく白ひもくれ
こつ物めくえんいかやうふうこあつき事
こく大形よていなりわくくうやうのるを
きくよつきてもかく此響古よてあめ何よと
のふこよきもあ一きも我しんさかものよて

人乃よりあしとらあ事よめささくくそか
あしとら又うこひいふ別ゆきくくこしんひ
あしくきてきたいんこまなわあすく
又五喜よみりのうこひいさしまわくうの儀よ
ん人ともみり乃あきさうこめもくんひみ喜よ
み清のう急乃る程いあ一是こくやのま
あてこまらりうこひいけきうせらつてい
たわくくくく他末世い五喜志わくうのものも
あつるあらあひこ又喜徳わきんてもいさか
るりよんを
一才一貌云こ此曲味いたんいとこれちめ乃
内もろくひとくさうりしんこくはく

たしん

一きよもあつくく祝云と一孔するのとなすわ
さ連の曲よりりかうあること多くあらまは
祝云をわくこいつと字性くおすうく
とうこふなわ

古き

弟代を招りーときをいそ針々る

ちとせのうけよままんとおもへる

夫ひさうこの神よりあめほちひくき一國乃
おこわあま乃みかこれまくなうや名もあこ
くーら乃神こくまはまこ座ーまれ國を作わ
をへくきあまこや大恙の兄うけ長保何とうや
あをふりーあーれ兼守れ神通くすえく
うぬ見やこちのすくなうへきりすう原也
ふーのさとの宮ほらりたわうら山乃うけ
たわく雲のうんあは玉履乃ほきもひりりや
みうくく見

右び大小の道もれあー

一舟二幽玄は曲味いよせい哉本とい幽玄と云
しと哉人よくはりーたこころとわらゆる也
とまおかきならひり事一なり花山りー入て
目をくくー黄林よいこちて家路を忘ゆこよ
似こわ幽玄よ二つれ候あはへし一の玄一の遊
これ心をよく分別をへいおいまこ口傳
あくてい耳をあるへー幽玄といへいとそ
引ちんてあうくくあゆあくとくこよまは

あゝ人のうちよゆうをもちうゝとあといふ
只志うきんの長閑りなる依なり跡は幽玄ハ
もののほよき城本とすあゝとくくゆうきんの
二字よく分別をへ

古き まゝやうんりくを燈形みのく様りり

たまあ乃言ちる春此あきなり

さあきくふ拙のさひひき杖の契乃人目まれ
なる古き乃庵の松うせ交るて月もくくあく
形も乃草わきれてるくつりへを悪ふり
あくつりまてりまら奉あくてあゝへん
多よ物るの思ひての人よは跡る世の中哉
くくつりとあく一とちよおむ佛の依乃糸

見ちひき跡く清れあ 海よひをもてくさせ
たまあ清ちうひくく多よものと見してまゆの
ゆくまの西乃山あまきとあらあひ田あのか乃
ろくまら乃了急のときこゆきとあゝい
いゆくたさこめあき世のゆめくくろあふの
なまよりさめてまゝく

一才三きん印と此曲味の以お乃幽玄乃ふく
なりくも也よせいと思ふ曲味切なりたと人
宮本乃のあゝありあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
おかやりのなりくもくくやゝき女れひとよ
やあゝく物もくきんとして俄よひき度くろひ
く人とあきくあゝくあゝく此玄幕の曲風

お似たりい此切なるまははわくもあはれ
とも風流の何とあくるへへりやうよあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

古事 志のあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

夕花あはれあはれあはれの雲の建りたひ乃にま
なうぬさひひき束守れ鏡のををけいろさ
山よひひききけくめあんとてわくまをよ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

清く入ていふ乃世までわらうらんちよめても
我壽乃秋よりさきよかあふいと夕乃りすい
りさあまことあふいと繫の人そあたのあて
こぬ衆いつり進とも擲干りちゆて
うまこのうらよとならむ進い夕これの秋風
あふいと松もあ乃松をうらういとを
ゆらま我まら人より乃をとり進をうらま
まー せめて抱くうらのあふまよふまそ
うせのたよりとあふた友もたすき乃窓の
秋風ひやうくふさおちて園雪乃あふまも
雪あまのなをまもすすまーくして志うふら
うらああふらーやあもへい是もうよああ
わく進あふとまもむらひま進い今更世をも
人をもうらむまーくあもま進ぬ牙乃程を
思ひゆくまてひとりぬれらんちより孫やそ
さあひーま

あふまよく進んかー一たのりなりむらーれ
名人うちもこれうらひなとあふらまーく
中されりあはれ四喜いままきゆりくう人
まんかの代はまきうらま進まも子あひ思ひ
ゆらまーらんかあふび無き乃うま成て
さうまきう進まらりひらりあま又しひの
乃理うすくあなりまきい進まあまもま此
白あとの面白きい成かーとまあしうらも

戸さきくめはひの時分よりく分別をへき物也
ひ曲の乱曲あり秘事一也

一分四哀傷

ひ曲味い春北花もろふちりく子歳までく
聖山も風の物もこき木こ乃こすえあきちり
つりのきき城見るりしうめく所く
色をゆく一たてくんうきくのおきくろり
むのこ急りあふらなるへしはまに
玄幕哀傷乃二のいんた一愛り別なるを人
も似た同一夢ようく事く色さうりきす
なりようく分別す

言奇

浅茅生や袖りくちりく姑の霧

わされぬゆめをとあわく一哉

さうらう露り志不きくくわぬるよかき
あく老松とそり風くしてとんともまら
こく人寸妻よや何事も思ひたもあんな
粵も所ぬよはそをぬたあもんちの川をり
とらさくめんく一生の風乃おれ雲夢乃
あひひこよきんくやまく三界の水のう人の涙
光月乃およきえんとひくせてんの内よは
ある乃うか一ひまつけひまいのちや一の
うちよはうろのく日ん里きまとうや棠花の
こよ春に花きのよんさかんを事とくく

おとろふもんまきのあきのひうわあーふ
ううしゆふへまきんもとりまきうわ秋来はて
花さんー葉落時うつり時へんーたのーひ
既まき作てかあーひたやーく来きり 約韻乃
花乃うんかふる露よりもさうあきものまうけ
ろふのあるりあきかのいちして世を秋風乃
うちまひきむまぬる田露乃書を唱て四季乃
田長乃一急もたらよとちをうまーとらん
衰まなり々る人男をい川ふんあまきふらへき

一才五乱曲

い曲いたけら曲なりうひいまーいた
き作ま建とんげさせてうーおのきうりー
きう建とたへんこれまうーの庭の松あを
おもろうきてちこみひきのんてまーす
なるを引ちこめあとするをものよらねさ
人はをれもーろーと物もふこまこれみち
ひたうなりうーあうあふらりもの
ゆたうんい更ま面うーひ二葉より自然
うーちうら松乃年をへてまーひうらう
減まおもーろくうん是もまーくこれ四書
すられてうーひうていいうてりげらん曲と
あるへき當時のうーひい志うきんよりわ
乱曲まなりるる百人乃尸をうまーるすとも
皆かうくまなりたうし世上めびらとてい

るをよとほくするもみまのあはゆるよんふくノふぶ別
かんようなり

古奇 山つきやうろさんみてうう桃花りううの
むとまきうもとふこけのむとまき

たう里のあーゆと城家とさうこめて木くけよ

すめりけくまよのうむねくを海山のゆくと

食とれハ西王母をもううやます又うりふよ

をあきあー此木のもとあまいうありとあは

まよ人とらめをわくて三とせれま乃花く

あく杖の月くもうぬ赤代とたのー見ろ此世

むあーときくしうい清りわくまかあーさよ

うう山のむをもみまううの月をもあうめい

死あんい乃ち此まうけ乃景の唐りあー

とたまあくは事ーもあくおきあーて人目も

志くけあけきーなりく

右び五書乃るうくまき志るーんなり

又祝云のううひ乃あーよ太小とつけこりい

わう志ゆの二字なりわう志ゆの字ハまうい

よこ也志ゆ乃字ハよこ也はまハ皮二字ハ持

肝要也横のあなをいふとく豎乃あなをいふとく

ううひハ也めハ深くハあなをたをきいきは

たまけハ也ハ横豎のハあくハまの深りーも

ち也又ー志あやとあまとらあるありハま

十五

横豎也其いりれをその色をもつてうへひよ
 もん縦はくは也織物をちすちひの多くれを
 なる物也あや乃文とりあ白き上は文を
 あさき升うへよおあーあさきよて文を
 うらちや乃多よてまこま上は同ーウらま
 文と片らちたまひは襦もれあー多を二ひ
 けててそよこそうこひくへ文を片ら
 ゆへよ一急あやをあさきといひはころを
 分別してつひよ心うけ深つけらひひい
 たまぬ物ゆくとあさきゆふいけり羽なり
 うへひ乃ゆりよ上下とま事あり是まの
 上の向下げ白乃うらなるなりーめをあ
 ゆりはを所むる事十七字十四字のつも
 あり熱別うへひの多るよりがころよよ
 法よようこそを引也ゆりよ十七十四を合三十
 一乃教乃ころをゆるとみしころあちち
 多敷をゆるよていあけまともま
 一かようひの位と云るあり衣の上下れ心也
 又字うつりよおをあわく引いのちを
 まんをよまれい乃ちを長く引を四寸六寸と
 りんまこまの字所より乃心のりひなるり
 うりてうひの位とりふたへ六寸と六寸と
 あらせんい尺よんつまは襦もま人をひき
 まる物ちうらてのちをもひけい六寸と

ゆりはを所むる事十七字十四字のつも
 あり熱別うへひの多るよりがころよよ
 法よようこそを引也ゆりよ十七十四を合三十
 一乃教乃ころをゆるとみしころあちち
 多敷をゆるよていあけまともま
 一かようひの位と云るあり衣の上下れ心也
 又字うつりよおをあわく引いのちを
 まんをよまれい乃ちを長く引を四寸六寸と
 りんまこまの字所より乃心のりひなるり
 うりてうひの位とりふたへ六寸と六寸と
 あらせんい尺よんつまは襦もま人をひき
 まる物ちうらてのちをもひけい六寸と

六寸よりなりくくくひ志たるくく此用心乃
くひなるわ能よりりて六寸四寸より一強々人
尺よりあふ也かるくゆへよりりてなりあうき坂
陽とくくくきを陰とくくく陰陽和合此の
なりたると人の春此日なりくれく冬乃日
ゆへ一世も一年乃くちよあうき季と見
うき季とあうせして陰陽和合とんとなりま
いとくばあを長短乃あなり也

所連よりちんものくくひやう乃り大夫より
洞子をめくきてくくへくつけあひ志て
うくひくくをきく文字一の半分程をそく
付るなり大夫とれあやうふくくひの

んりんと思ひくくくひくくくく
物也つけあひくくくもろくくくあきやう
一の口よりくくく揚よりえん横り
あむへく大夫のくくひくくくくりて
くくへくくもく大夫よりちやくくくひお
くくあくきたのためかきわち志よくなりた
たゆあ下よりくくく上よりなり大夫付
熱別つてよりきくく法役志なり何と上
よりあひくくく大夫一人下よりなりとも
くくくくく是上よりわきをわ仕舞あとも
くくくと大夫と二人くくする仕舞ある時
くくくくくくくくくくくくくくく

ふりかまきせ

一 うらひ乃らきしきのみ女能きとよあはくも
らきとけくする見くあきまものせらきれはき
やうらふも志流くふつきとよ

一 地謡をうらひの時節をいさうては持うかめ
まてうらふの拍子をうらへ拍子さく
うらとまきとけ

一 うらひは一字はめ二字はめとらあまら一字
はめて二字のあを一字はめとら又二字
はめて一字のあを二字はめとら又三字
あはのあをすよ乃ひのうらへ
あはまらうらひとけ

一 文字をくわとらうらあまら字二つはくき
ら時らまら乃あまき字とらひきとらまき
あはくとわつけうらひかうらへを文字
をくわとら

一 あまら二つあは曲舞とまら二箇曲舞とら
あまら曲舞あはまらの子あはあまら
曲舞い謡ふむらありまむらをあせまき
だめあまらと二つあまらまらあまら
らして曲舞れ位をまらめらめれあまら
をものちれあまらうらあまらまら
陰陽のまら也熱別あけたら乃位とらめ字二
三のあまらとあまらとあまらとあまら

かるく地へわさし奉り是あしひたすわあけは
 志さふたれい地までも志ころくたすもの也
 そんかきん肝要なり但も一此さしひむきと
 ともくすわとり又上とみくをさるへ
 上と一大事也あけはあしく人い熱別の
 位よろむきむさところ物よ女也
 和安乃うさしひやうさめを何とあく拍子よ
 かぬりひくるくむよんまひ乃うちよわ
 乃はこあきて和安うさしひさし後二三
 あくのさる哉よといわあまわりりむきく
 乃するい初心なる物也

一うさしひへ打ちさるあまのり深するさる

若つて初いよさうちきぬ事あやを討ら
 うさしひへさしすくよはきさへとわは
 ものなりさあしひ也

一うさしひうこあひんところのり人つけらりく
 す急へ飛付へまへのわされらなぬさしひ
 あ哉さぬ物也深うさしひそこあひんとそし氣を
 うさふまきなり高座北けりとおしひて
 さきとさあむへけり哉わさしひと人い
 後まてあしきある物也

一四月朔日おあしく卯月八日おとの深賀後の
 小うさしひよん

一小深のうさしひ横あゆをさる宮さるのよわ

うらひ出ー松たうきとうふてよりきましく
松さきとらゝ志ききうの討まはうんもねなわ
いづまきの小うらひも同あ

一 寄曲あ出口傳 一 調 二 様 三 部

調子をい様うもら也吹物乃調子を縁とありて
きよありひまーて目をふききてつきを内へ
ひきそね了急とかせいこいさき調子乃あり
よりある也調子よりり故とめてきよありひ
！そおねつとせいこさき調子よあふ事
さうなく調子をい様よこめて了急とつこさ
ゆへよ一調子ニ様三部とけさこむる也ま
三調子をいきまてもち夢をい調子よて部

文字をいうちひるまてわうらへー文字も
あーいぬかとの曲をいりか乃ありやうと
もつてあひーいふへし 毛詩曰

情發 吟夢 部成 又謂之音

一 大まうらひらうらひ自然物を保くことあり
そ時思ひいこー次才よ地よりつけうれ流を
やうのま一人ちやく思ひいこーうら人つき
らうくこくうーこより口こよ流巻ぬ物なわ
一人付ら人も調子れちうらひらぬやうり
すうーて流けへー苗をよて流けぬものなり
うやうれる目のおよたかきうあまことひよく
らねてつけら人のまれよら如横のるれ男也

わく付く人のたまも氣をうへあひさき坂
 又忘ゆるまわりまきさすてもきこよき物也
 曲をあまるるまわりあまふいふあひさき坂
 字ふまりいまろくあひさき坂
 のなりあまりとりあひさき坂乃うちみく
 才一のきこよき物なわろく不削くま
 けりてあひさき坂

うへは祝云まうわく乃夢乃わろくちと志る
 幸呂律二のまわりわろく也呂と云いまろくあ
 了急つひのまきれ了急也律と云いああむ
 お入のまきとつあ也まろく根本をわろくまきや
 わくれまろく祝云乃夢の機を解よしとまきよ

了急哉所きまろくもあなり是所よまき言夢也
 是の呂乃志る祿也まきをわろくつてつよまきあひ
 つまきをわろくもあなりあろくあひさき坂乃折
 机をわろく祝云才一なりまろくわくの夢と
 つひの急を解よしと機をゆるくもあひさき
 やろくあまわろくまきまきをゆるくもあひ
 入いき乃まろく也是律乃代あひれなる志やう
 祿也祝云まろくわろくとあひさき坂乃志るまきん
 了急ま機をまろくゆへは調子れくるるあひさき
 とまろくわろく機をゆるくもあひさき坂乃
 子乃め体をくせとれ
 一 謡は曲祿と尸の一なりわろくまろくゆへ

かりりめとつゝあひの舞舞拍子と舞ふうゝふ曲
あまの文字をの拍子りもらふよあて文字も
白うけりもかろゝ又拍子り引ひくはくろゝ
よりてあゝあまる章ありはまきひとあゝま
きゝゝえて面白き風姿ゝま拍子れおもゝろき
志やうぬ也さほよらてあおまるとゝろも
一舞乃あゝまよきこゆる也是を曲舞ありの
風姿とすゝゝゝひと中へ拍子りかきほ
ゝゝもあゝゝゝありれまゝゝゝゝふゆ人よ
文字の章まきまきまき程は舞乃舞いさうあゝ
ままそゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝゝゝ人もまきゝ人も回ひよ一曲のかん
應也則ゝゝゝき感有り 毛詩曰

正得夫勤天感鬼神英迥於詩

かくとつゝもゝれ感有り我の曲うんあゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
我の曲の正風をのあゝゝゝゝゝゝゝゝ
白うけりも正也まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゆん也ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 かしらへー 但物狂なりハ心もちちうふへー
 一 男乃かこり是もうわくくくくへしきふ
 一 くらうきハあーく是も物狂ハちうふへー
 一 ひこめん乃わくわオーうがくせあきやうよ
 一 ーあむへー
 一 せうあとのうくわきつうおもひてあきく
 一 あきやうふかこり也
 一 いくさ物狂あもあつうまもうひくくうせん
 一 けふも成知んとかるへし急なとも品を中
 一 とーうんとすくあくるくは也
 一 祓秘を佛はふとはいつうも真子時勝り

一 流き抽あど人よりさうりていりへを語る
 一 抽あこりありこまははうもよいくと
 一 執心をあーくをむひよもちてあられり
 一 あつななり又いとく物狂も流まや抽いとよ
 一 えあれ子とーあひあとーく物おひひの
 一 きやうらんハ右と回あなり但仏祓のとらめ
 一 まるん乃ものあと見入て抽よくらふハ各別
 一 なわこま又いつよもあくと流よを中と
 一 せまーくあつるなわこまもういせはあく
 一 らぬらんよーなわ
 一 わいあてよーひうけやう乃あ女のあるい
 一 児童乃あるいなと成つうおも志とやうり

あつてく—きよむとわ志たうふ—あよとひ
うげんなり

一上人あとのまきよ志て志度のとあ—いわき
へろとひうけそらおまへし

一貴人言人へろとひうげんと—ろき世る此
さかうろしとく—あよ持へ—しりまよせ
物あまいさあつへ—く志よせんゆめ要
なわたし—又あまちはせまききは志がく
きもの也志があひかきんかんよう也

一鬼神ものりあま—まじつらもよたみあ—
片よくと物—あう—せん—やうり—
とひあくへ—祿よは志んよ薄而云案をかえ

とへ—鬼へいさくはいなり

一菩薩あとい志てよわさうり此淫うけいよも
真よ—あをま—て—とく—強うくへし

一大内女うああとの志てよわき世の人あ—
う—ひのつひうけちうあ—しつら世も能と
いあ世る乃物まひあ—ともちのちうひ
んうぬやうよそ祈まへ—

一家人うち此志たよよものいとするよ思ま—
世上よつひよあるさかうの—ちあ—
そ能よてあ—い分別まへ—

一まがろ—夢中の人あ—と案とりひる
大事—也分別口傳あり

一 関守をとのまきつうおも志がまぬううろ哉
もちほよくどらうふへ

一人あき人こまもりつうよも志がまぬ心をもち
ほよくあうくどらうふへ

一 けやーき木らわすこやまをまうらあとの
しそよまき貴僧の僧雲の上人たうのうよも
けたわくむうひをさげしものとおへし
是こま持をわ

一 拙狂の仕手よとひけ換うほくくうせと
しそたーやうふとふへしまよ回けうん
似合ぬ拙まてんさやうよんんとしてむさ
とよふわんは是の心持也

一 大吏乃ううひ極右の服れうましく此志てよ
ううひうけやう乃の持同也

一曲よあまる事しあまわりんあう
文字あまわりわうー文字あまわりとまふと
一切乃文字の章うちうひんんあまるなわ
しなまわりとてよは乃うあ乃字の章也

てよはの字乃章の正いつひあうすこと葉の
あひきようりて正よちうんともあうたよも
よけしんんあうひんんくわわきて
口傳とへしよまを乃もーのことよまは
うけもーう乃おりり假名の正うちかへ
ともしあかりよなれそくわううまんあ

と申す大略は乃文字の急なり熱して
淫をいひたるも三つうごもぬなりまゐの
文字乃内をいひしはめひきなきいまは乃
文字より文をへふし大略は乃あは
ものなり

一せきふれ事一たゆふのせきふり乃せきふ
ちうふへしきやうきんへ乃あひしひ同お
なり大夫のものあきあひしひて
まきいひるもはゆやうふてし

一鬼丸大夫乃ときいしうふもはよこ城あんと
いりまはこころあはうふへ

一女の大吏の淫はも志あやうふへ

一せうのうひひるもいひてうへへ
一物くはひ乃大吏しうふも音曲りかぬら
するくとうへへしうひまはうへ

中意はあへ

一弁辞の菩薩あはれ大吏しうふも真なりこころを
疎務ももちてうへへ是うひやうこころ
もちれあへひ也まの能のかんようなり
一熱別の目き志てへうこころせはらうも物なり
うへせは音曲かまきりもあへ只はうへ
とこふへわき能志うへくおもへうへ
うへひうけうへてれきうへ城あへつき
やうあへうへもわきのうへひ孫をき

一 度安うゝひつゝもあき討のうゝひやうのる
うゝひすへら変大吟乃とくろうゝひもへぬ
りふくら也

一 回書乃つけあひのり程云乃のけよく付へし
まらんが哀傷述懐すとのりつゝもよんく
つけへしとわりつけくときのもえあを付へし
かんきん也つゝもあをせうけくしけ
へし脩羅鬼くゝ乃けあひつゝもけよく
くゝやうふ付へしつゝもそれくこれけ
あひ乃いもちうんようをわ

一 女房花源氏供養あとの日き乃うゝひをまき
らうへんやうゝひもあゆば時乃うゝひ程
わさやうゝひつゝもあひねさきへとひ
ちまへ程けへしつゝもあひなわうやうれ
事つゝもあへもわうゝひつゝもあひ乃の
れや

一 音曲をうゝひんとおもつゝもあひなま
するりとうゝひつゝもあひなま音曲をうゝ
あひつゝもあひなま音曲をうゝあひつゝ
音曲乃威光あきまの也めつゝもあひなま
うゝひんとおもつゝもあひなま音曲をうゝ
事つゝもあひ也

以上うゝひの格意八十五ヶ条に巻子
あゝひの形是より奥あきさる

